

和田島北部地区津波避難施設整備基本構想 概要版

1. 基本構想の背景と目的(P.1)

令和4年3月に改訂した「南海トラフ巨大地震に伴う小松島市津波避難計画」によれば、和田島小学校区の北部地域のほとんどが津波到達予想時間までに安全な場所まで避難することが困難な特定避難困難地域となることが想定される一方、平坦な地形が広がるため高台等が少なく、津波避難施設となる高層建築物も不足していることから、地域住民が迅速かつ安全に避難できる津波避難施設の早急な整備が求められています。

このような状況を踏まえ、和田島北部地区内に建設される津波避難施設としての必要条件を満たす整備を総合的に推進するために基本構想を策定するものです。

2. 和田島北部地区の現状と課題(P.8~15)

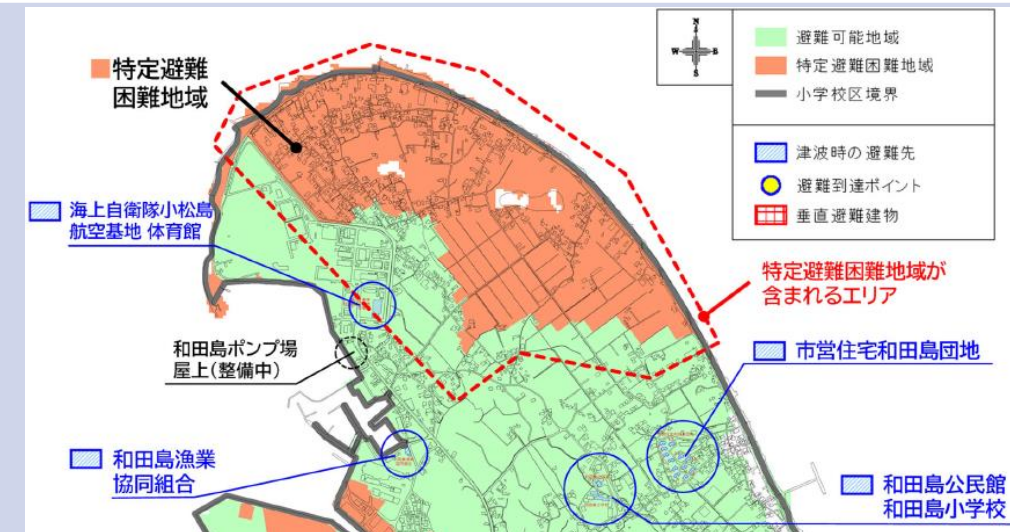
【地域特性から見た課題】

- ・地震動や液状化に関するリスクが高い
- ・三方を海に囲まれ、平坦地の多い地形
- ・人口の3割以上が高齢者であり、円滑な避難への支援が必要
- ・沿岸付近には工場が多く立地
- ・住宅地の周辺には太陽光発電設備が多く立地

【津波浸水想定と避難計画から見た課題】

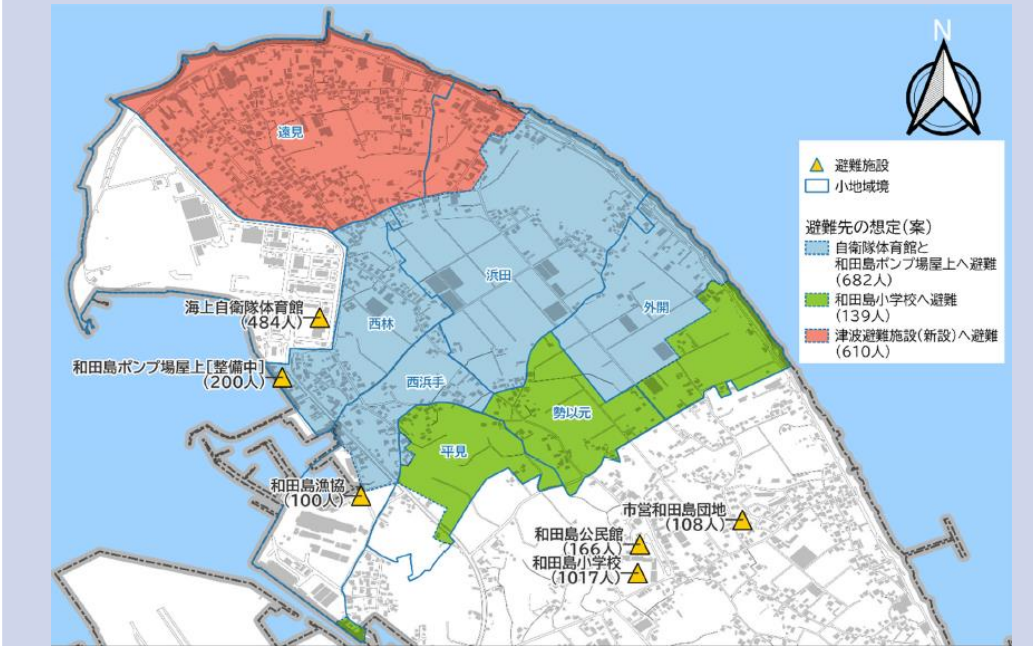
- ・特定避難困難地域が広範囲にわたり避難困難者数が多く存在
- ・地区内に基準水位3m以上6m未満のエリアがある

3. 特定避難困難地域の分布(P.18)



4. 和田島北部地区における津波避難のイメージ(P.19)

津波避難計画のシミュレーションとその後の避難場所の整備の状況を踏まえ、本構想では津波時の避難先を次のように想定します。



5. 検討方針及び基本理念(P.21~22)

和田島北部地区の課題を踏まえ、それらの課題を解決するため以下のとおり検討方針・基本理念を設定します。

検討方針

- ・誰もが安全に避難することのできる津波避難施設の増設(新設)が必要
- ・津波避難施設の整備には、和田島北部地区の地域特性の十分な考慮が必要

基本理念

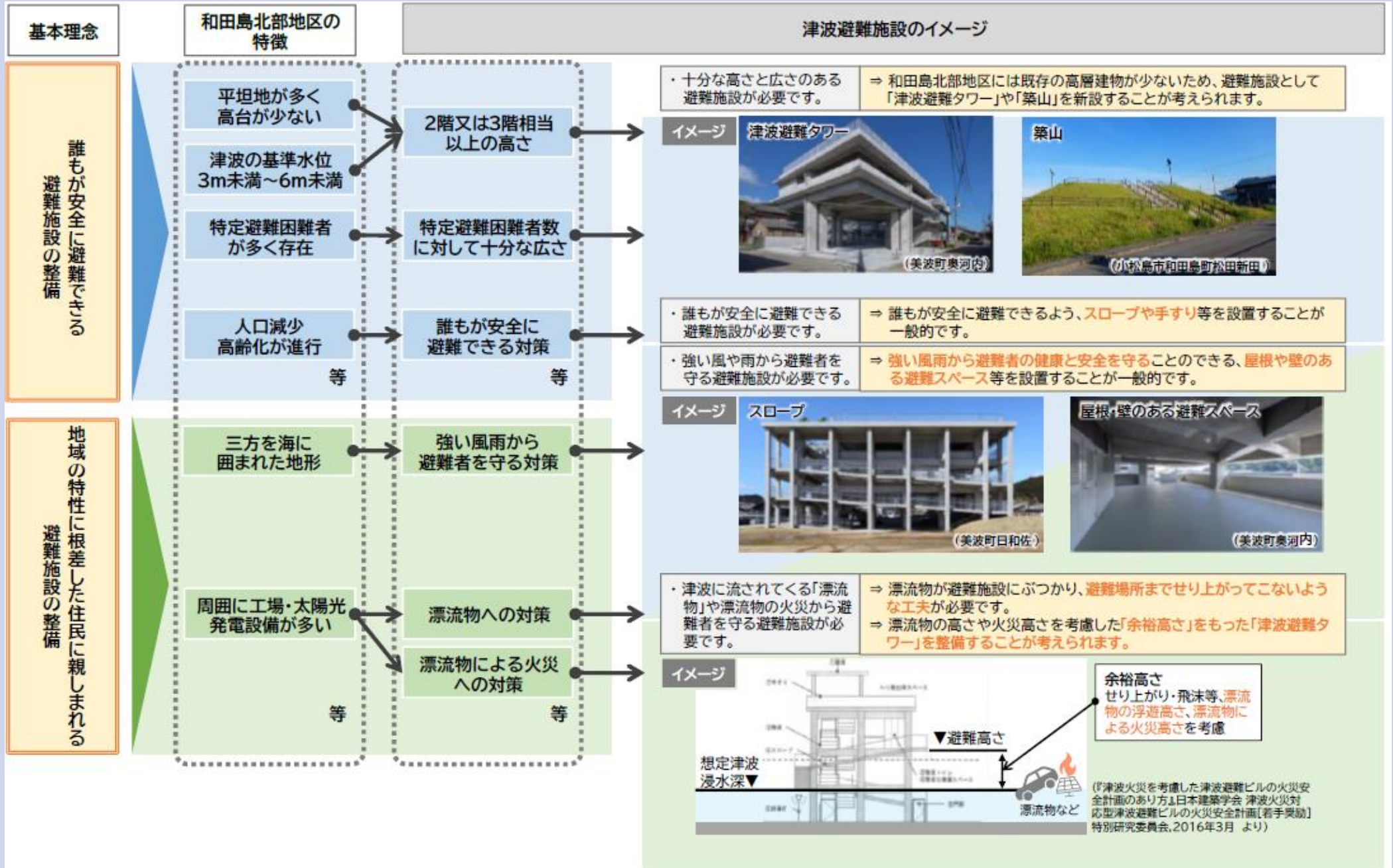
誰もが安全に避難できる
避難施設の整備

地域の特性に根差した住民に
親しまれる避難施設の整備

また、ソフト対策として地域に根差した運用方法等の検討を行い、それらの方法を住民に提案することで、住民が主体となった避難計画の作成や避難訓練の実施を促していく。

6. 基本理念に基づき求められる津波避難施設のイメージ(P.23)

「基本理念」のもと津波避難施設の検討及び整備を進めるに当たり、今後踏まえるべき「和田島北部地区の特徴」と、今後の検討のたたき台となる「津波避難施設のイメージ」は次のとおりです。



7. 津波避難施設に求められる機能等(P.43~45)

基本構想の基本理念及び先進事例の整理を踏まえ、今後整備する津波避難施設に求められる機能等について次のとおり整理します。

求められる対策等		求められる機能等
1-1 災害の防止と軽減、避難スペースの安全性向上	屋根付き避難スペース	・屋根付きのスペースがある構造を検討する ・想定される避難者数を収容できるスペースを確保する
	スロープ・手すり	・「徳島県ユニバーサルデザインによるまちづくりの推進に関する条例」に沿った設備・構造を検討する
	照明設備	・夜間避難時に安全が確保できる照度、平常時の周辺環境等を考慮した仕様を検討する
	その他	・手すりや階段は高齢の方等も視認しやすい高視認性の材料を具備する仕様とする
1-2 情報の伝達と収集	標識	・JIS規格等に準じた適切な標識を設置する
	施設案内設備	・必要に応じて施設案内板を設置する
	非常用通信設備	・必要に応じて無線機等の通信設備を設置する
1-3 避難及び一時滞在の設備	備蓄倉庫	・最低でも24時間の滞在を考慮し、必要な備品を収納できる空間・設備を確保する ・備品を安全に保管できる堅牢な仕様とする ・管理者と地震解錠キーボックスで鍵の管理を行う
	太陽光発電システム等(独立電源)	・独立電源を基本とする(太陽光発電)
	非常用電源設備	・照明以外の電気製品に対する電源設備を設置する
	簡易トイレスペース	・給排水設備を必要としない簡易トイレを使うスペースを確保する ・ユニバーサルデザインを考慮した大きさのスペースも検討する
	その他	・風雨対策の設備を具備する
1-4 救助のための設備	緊急救助用スペース	・緊急救助用スペースを確保する
2-1 沿岸部に位置する地域の特性を踏まえた構造	耐火・耐塩性に適した構造	・耐火性、耐候性、メンテナンス性等を考慮した構造とする
	漂流物対策設備等	・基準水位に対し余裕高さを確保する ・先行事例やガイドライン等を参考に、漂流物の衝突も考慮した仕様とする
	その他	・設備機器は耐候性のある仕様とする
2-2 避難行動要支援者ための周辺スペースの確保	徒歩以外の避難方法への対応(避難行動要支援者の行動支援等)	・徒歩による避難を原則とするが、避難行動要支援者へのニーズに対応できる周辺スペースの確保についても検討する
2-3 地域に根差した運用方法	平常時の開放	・平常時開放も視野に入れた運用を検討する(地域住民に親しまれ、保守や避難訓練への参画、平時の津波防災に関する啓発等に寄与することを期待)
	地元住民による維持管理	
	地元住民による避難訓練	・周辺環境に配慮した高さ、形態を検討する
その他	・地域の特色を取り込み、親しみを持ってもらえるデザインを検討する	

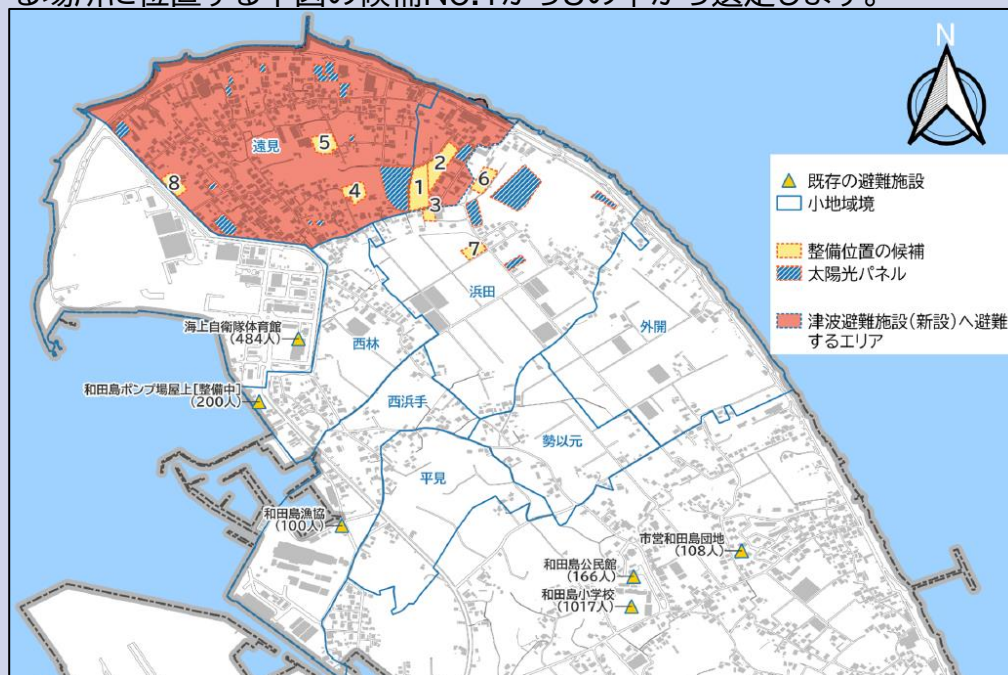
8. 津波避難施設の形態(P.46)

今後整備する津波避難施設の形態として、「津波避難タワー」及び「築山」を検討します。

特徴	形態	タワー	築山
形態		建築物	盛土(地盤改良含む)
避難方法		スロープ+階段	
所要面積		小	大
避難スペース		屋根有り 備蓄倉庫有り 簡易トイレスペース有り 風雨対策設備有り	屋根無し※東屋程度は可能 備蓄倉庫無し※計画は可能 簡易トイレスペース無し※計画は可能 風雨対策設備無し
徒歩以外の避難方法への対応		敷地内の余裕スペースに乗りつけ場所を確保できる	斜面面積が大きく、敷地に大きな余裕がないと難しい
平時の利用		閉鎖又は開放	開放
維持・管理		定期的なメンテナンスが必要	定期的なメンテナンスが必要
漂流物への対策		余裕高さを確保 損傷を許容する仕様	余裕高さを確保
救助のための設備		緊急救助用スペースを確保	

9. 津波避難施設の整備位置に係る検討(P.47~53)

新たな津波避難施設の整備位置は、字遠見及び字浜田の特定避難困難者が避難可能時間内(30分以内、避難距離1,800m以内)に避難できる場所に位置する下図の候補No.1から8の中から選定します。



10. 整備位置の選定(P.54)

評価項目及び評価基準により、整備位置の選定評価を行った結果は、次表のとおりです。
候補No.8が最も整備位置に適するという結果となりました。

整備位置の 候補 No.	①敷地状況			②接道状況・アクセス性				③周辺への日影			④敷地の利用状況		⑤支援等の迅速性	
	面積	形状	①評価	幅員	舗装	アクセスの明瞭性	②評価	周辺の住宅・太陽光 パネルへの影響	③評価	敷地の利用・用途変 更の可否、容易性	④評価	自衛隊基地との距離	⑤評価	
1	○ 十分な敷地面積 がある	○ ほぼ整形	○	△ 4m以上8m未満	○ アスファルト舗装	○ アクセスルートが わかりやすい	△	× 周辺への 影響が大きい	×	○ 用途変更可能 (山林等)	○	△ 比較的遠い 直線距離:約 790m	△	
2	○ 十分な敷地面積 がある	○ ほぼ整形	○	△ 4m以上8m未満	○ アスファルト舗装	○ アクセスルートが わかりやすい	△	× 周辺への 影響が大きい	×	○ 用途変更可能 (山林等)	○	△ 比較的遠い 直線距離:約 860m	△	
3	×	○ ほぼ整形	×	△ 4m以上8m未満	○ アスファルト舗装	○ アクセスルートが わかりやすい	△	× 周辺の住宅への 影響が大きい	×	○ 用途変更可能 (工業用地)	○	△ 比較的遠い 直線距離:約 800m	△	
4	○ 十分な敷地面積 がある	△ やや非整形	△	×	○ アスファルト舗装	△ アクセスルートが 屈折しややわかり にくい	×	× 周辺への 影響が大きい	×	○ 用途変更可能 (山林)	○	△ 比較的遠い 直線距離:約 640m	△	
5	○ 十分な敷地面積 がある	△ やや非整形	△	×	×	×	×	× 周辺への 影響が大きい	×	○ 用途変更可能 (その他自然地)	○	△ 比較的遠い 直線距離:約 630m	△	
6	○ 十分な敷地面積 がある	○ 整形	○	×	○ アスファルト舗装	○ アクセスルートが わかりやすい	×	× 周辺への 影響が大きい	×	○ 用途変更可能 (原野等)	○	△ 比較的遠い 直線距離:約 950m	△	
7	○ 十分な敷地面積 がある	○ ほぼ整形	○	△ 4m以上8m未満	○ アスファルト舗装	○ アクセスルートが わかりやすい	△	○ 周辺への影響が 少ない配置が可能	○	×	×	△ 比較的遠い 直線距離:約 860m	△	
8	○ 十分な敷地面積 がある	○ 整形	○	○ 8m 以上	○ アスファルト舗装	○ アクセスルートが わかりやすい	○	○ 周辺への影響が 少ない配置が可能	○	○ 用途変更可能 (山林等)	○	○ 比較的近い 直線距離:約 270m	○	

凡例 ○:適する △:懸念事項がある ×:適さない

※新たな津波避難施設のボリュームは、20m×30m×高さ11.5mの箱型と仮定して評価した

※④敷地の利用状況は平成30年時点の土地利用現況より整理した

※⑤自衛隊基地との距離は、自衛隊基地ヘリポートから各候補地の重心点までの直線距離をGISにより計測した